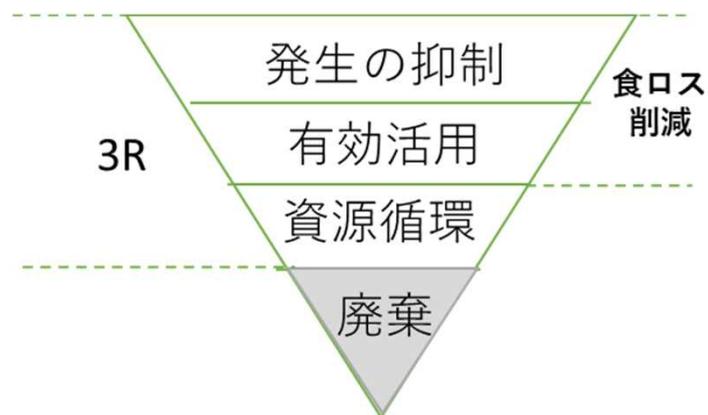


カスミの食品ロス削減の取り組み

(経済的価値と社会的価値をともに高めることで企業価値を高める)



カスミ人事総務管理本部 地域連携マネジャー 伊神 里美

2024年8月7日(水) 第1回 いばらきフードロス削減推進事業者協議会資料

U.S.M. Holdings

ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス



KASUMI



ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社 (U.S.M.H) は、2015年3月に株式会社マルエツ、株式会社カスミ、マックスバリュ関東株式会社 の経営統合により、共同持株会社として誕生しました。肥沃なマーケットである首都圏に、長年培ってきたブランド力を活かして地域密着のサービスを展開しています。

お客様の生活様式が変化し、消費行動が多様化する中、U.S.M.Hは、地域のお客様の豊かで健康的な食生活に貢献し続けるために、地球環境の保全や、全てのステークホルダーの皆さまの「ウェルビーイングの実現」に貢献することを目指しています。そして、より大きな社会的貢献を果たすべく、「結び付き」を深め、多くの人々が「集う」グループへ進化してまいります。

U.S.M.Hが展開するプライベートブランド



おいしさを追求し、さまざまな地域の食文化や地域に根ざした逸品に焦点を当て、高い品質とお手頃価格を提案します。ミールキットブランド「eatime chef」も販売中。 <https://eatime-web.com/>



「安心・安全」、「健康的」、「環境にやさしい」をコンセプトに、サステナビリティに配慮した商品を展開しています。体にも環境にも優しい「ウェルビーイング」の実現を目指しています。 <https://mygreengrowers.com/>

サステナブル志向で「Green Growers」のレタスを生育
「THE TERRABASE (ザ・テラベース) 土浦」(茨城県土浦市)

株式会社プランテックスと協働稼働の自社植物工場生産するレタスを、2022年より店舗および「Online Delivery」で販売しています。密閉された栽培装置、機械化された清潔な環境のもと、栽培時の水使用量低減化に取り組んでいます。



■ 会社概要

社名 ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社
 代表者 代表取締役社長 藤田 元宏
 本社所在地 東京都千代田区神田相生町1番地
 設立 2015年3月2日
 資本金 100億円
 事業内容 スーパーマーケット事業の管理

■ グループ店舗数

グループ合計
529店舗

直近の店舗数はU.S.M. Holdings ホームページをご覧ください。
(<https://www.usmh.co.jp/>)



■ グループ営業収益

	店舗数	営業収益
株式会社マルエツ	304 店舗	3,898 億円
株式会社カスミ	195 店舗	2,713 億円
マックスバリュ関東株式会社	30 店舗	451 億円
	529 店舗	7,066 億円

※店舗数は2024年4月末現在 ※営業収益は2024年2月期連結決算数値

マルエツ・カスミの共同 DC
「U.S.M.H 八千代グロサリーセンター」

2023年9月稼働開始。U.S.M.Hグループとして、将来にわたる持続可能な物流体制の構築にチャレンジしています。



KASUMI

カスミのあゆみ

カスミは1961年の創立以来、地域のお客さまや株主さま、お取引先さまなどの皆さまのご愛顧とご支援により、今日まで営業を続けることができました。これからも「よこごびを分かちあえる食卓づくり」を使命に商品やサービスを磨き上げ、100年愛されるスーパーマーケット企業を目指します。

1961 株式会社カスミ設立、1号店として石岡金丸店開店

1968 商号を株式会社カスミストアに変更

1984 株式会社カスミストア、東京証券取引所第一部銘柄に指定

1985 事業多角化に伴い商号を株式会社カスミに変更

1987 株式会社ローズコーポレーション設立

1992 カスミつくばセンター完成

1999 カスミ100店舗達成

2000 カスミグループの本社をつくば市に移転、フードスクエア1号店オープン

2003 イオン株式会社と業務資本提携

2006 カスミ初の女性店長誕生

2009 株式会社カスミグリーン設立

2011 設立50周年、ネットスーパーサービス開始

2013 移動スーパーサービス開始

2015 マルエツ、マックスバリュ関東と経営統合し、ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス設立

2018 株式会社カスミみらい設立

2019 カスミいいねの森保育園開園

2020 Scan&Go、オンラインデリバリー導入、オフィスマートショップオープン

2022 新業態「BLANDE」オープン

2023 Scan&Goカード導入

Company Overview

会社概要

KASUMI

株式会社カスミ

商代本	号表社	株式会社カスミ 塚田英明（代表取締役社長） 〒305-8510 茨城県つくば市西大橋599-1 Tel.029-850-1850 https://www.kasumi.co.jp/
設	立	1961年6月
資	本	1億円
営	業	2,698億91百万円（単体）
店	舗	195店舗
従	業	2,910人
事	業	食料品、家庭用品、衣料品等の小売販売を行うスーパーマーケット事業

群馬 4店舗

栃木 7店舗

茨城 108店舗

岩瀬流通センター

つくば

本社

土浦・かずみがうら

佐倉

佐倉流通センター
佐倉精肉加工センター

千葉 40店舗

中央流通センター
土浦精肉加工センター
ローズコーポレーション
カスミグリーン
カスミみらい

東京 2店舗

合計195店舗

*2024年4月現在

カスミつくばセンター

カスミの事業所

流通センター
カスミの物流拠点。茨城県かずみがうら市、桜川市、千葉県佐倉市の3か所。

精肉加工センター
カスミの店舗に加工肉を供給。茨城県土浦市、千葉県佐倉市の2か所。

リサイクルセンター
店舗で回収した資源物を選別・圧縮・梱包するリサイクル拠点。茨城県かずみがうら市と千葉県佐倉市の2か所。

Sales

多様な販売チャネル

カスミは「あらゆる人に食を届ける」ために、多様なお買い物機会の創出に取り組んでいます。移動スーパーの運行に加え、店舗でのスマホ決済、インターネットで注文した商品を自宅や店舗で受け取れるデリバリーサービス、オンライン決済による無人店舗の運営など、デジタル技術を活用した便利なお買い物体験の提供にも努めています。

移動スーパー

お買い物が不便な地域の皆さまに商品とお買い物の楽しさをお届けする移動販売。茨城県23、千葉県16、埼玉県13、栃木県6の自治体と連携し、合計車両68台での運行とサービスエリアを拡大しています（2024年4月末現在）。おにぎりやお弁当をはじめ、野菜や魚、肉などの生鮮食品、牛乳やパンなど約650品目を提供しています。



オフィススマートショップ

オフィスや工場、病院、自治体等の省スペースに設置可能な無人店舗。支払いはScan & Go アプリのみで「近くにスーパーやコンビニがない」「従業員の食環境を改善させたい」という自治体や法人から人気のサービスです。2024年4月末現在、193拠点を展開しています。



ONLINE DELIVERY

オンラインデリバリー

食料品から日用品まで毎日の生活に必要な商品を「安全・安心」「便利」にお届けするネットスーパー「オンラインデリバリー」。来店することなく店舗の商品を注文でき、自宅や配達エリア内の指定先、店舗の「ピックアップルーム」で受け取れます。また、一部店舗では車に乗ったまま商品を受け取る「カーブサイドピックアップ」を実施しています。カスミでは80店舗に導入しています（2024年4月末）。

さらなる利便性の向上に向け、複数店舗の商品をオンラインデリバリー1回の注文で購入できるLFS（ローカル・フルフィルメント・ストア）のサービスをつくば市、水戸市、守谷市で実施。また、オンラインデリバリー会員限定の有償サービスとして、注文後1時間程度で商品をお届けする「即時配送サービス」をフードスクエア板橋前野町店（東京都板橋区）など7店舗で実施しています（2024年4月末現在）。

加えて、カスミの公式ウェブサイト掲載のデジタルカタログと連携を強化。デジタルカタログから直接オンラインデリバリーで注文できるようになりました。



オンラインデリバリー



商品をピックアップ



カーブサイドピックアップ



ピックアップルーム



即時配送サービス

Uber Eats・Yahoo! ショッピング・楽天市場

より便利で手軽にカスミ店舗の商品をご利用いただけるよう、「Uber Eats（ウーバーイーツ）」を利用した店舗商品の配達サービスを茨城、千葉、埼玉、栃木、群馬、東京の66店舗で導入しています。また、Yahoo! ショッピングに「カスミ netshop ギフト館」、楽天市場に「カスミ SHOP 楽天市場店」のインターネットモールを展開し、ギフトに最適な季節の商品や地域のグルメをお届けしています。



Yahoo!ショッピング「カスミ netshop ギフト館」



Uber Eats

「Uber Eats」ウェブサイトアプリではこの画像が当社の目印

KASUMI カスミSHOP 楽天市場店



「カスミSHOP 楽天市場店」

Symbiotic Society and Community Development

共生社会の実現と地域社会との連携

だれもが暮らしやすい共生社会の実現を目指し、地域の課題解決や文化・スポーツ振興などに、自治体など地域社会と連携しながら取り組んでいます。



「わたしの企画」応援します！

1992年の新社屋（カスミつくばセンター）の完成を機に、1993年からカスミつくばセンターを市民活動の交流、文化発信の場として開放し、地域の皆さまが手づくりの企画を実施することをサポートしています。

フードバンク活動

販売管理のために売り場から撤去した賞味期限・消費期限前の食品を、出店地域のフードバンクや社会福祉協議会を通じて生活困窮者や子ども食堂へ贈る活動を、2024年4月末現在156店舗で実施しています。



保育事業（いいねの森保育園）

内閣府の企業主導型保育事業を活用し、2019年7月に茨城県つくば市の本社敷地内に開園。食育に力を入れているのが特徴です。従業員の子育て支援はもとより、地域の待機児童対策への貢献を目指します。

イオン チアーズクラブ カスミつくば

公益財団法人イオンワンパーセントクラブが運営主体となって活動するクラブの一つです。2023年4月からBLANDE研究学園店を拠点に、地域の小学生36名が「食の循環」をテーマに学ぶ活動に参加。店舗見学、食育学習、農業体験、工場見学など、年間で全10回活動しました。



5 A DAY 食育学習

子どもたちに「食べることの大切さ」「食の楽しさ、おいしさ」をお伝えする食育学習を実施しています。店舗を会場として行う店舗型と出店地域の小学校や保育園などで行う出前型があり、講師はカスミの管理栄養士、食育インストラクターが務めます。2023年度は476回実施、13,897人の園児・児童にご参加いただきました。



社会貢献 Social

地域とのつながり



食育・健康 Well-being

良い食習慣の提案



基本事業 を通じ
地域と 連携し
住み続け られる
まちづくりを
推進し ます

環境 Environment

持続可能な環境活動



自治体との連携

地域の活性化など幅広い分野で連携する「包括連携協定」を茨城県のほか17市10町1村（合計29自治体）と締結しています。また、大規模災害の発生時に、行政の要請により食料や生活物資を優先的に提供する物資の供給協定を60自治体などと結んでいます。

地域スポーツ支援

茨城県つくば市の国立大学法人筑波大学の認定する課外活動組織「筑波大学蹴球部」「男子バスケットボール部」を公認スポンサーとして応援しています。また、茨城県鹿嶋市、神栖市、潮来市、行方市、鉾田市をホームタウンとするプロサッカークラブ「鹿島アントラーズ」をクラブパートナーとして応援しています。



©KASHIMA ANTLERS



マラソンエイドステーション

つくばマラソン、かすみがうらマラソン兼国際ブランドマラソンにおいて、エイドステーションを設置し、お汁粉、お水を提供しながら、ランナーの皆さんを応援しています。



霞ヶ浦清掃活動

霞ヶ浦のきれいな水を取り戻すため、2018年10月の世界湖沼会議開催をきっかけに、自治体と協力し、土浦・つくば近隣カスミおよびイオングループの従業員とその家族、市民団体の皆さまとともに、霞ヶ浦湖岸の清掃活動を実施しています。



植樹活動（カスミ共感創造の森）

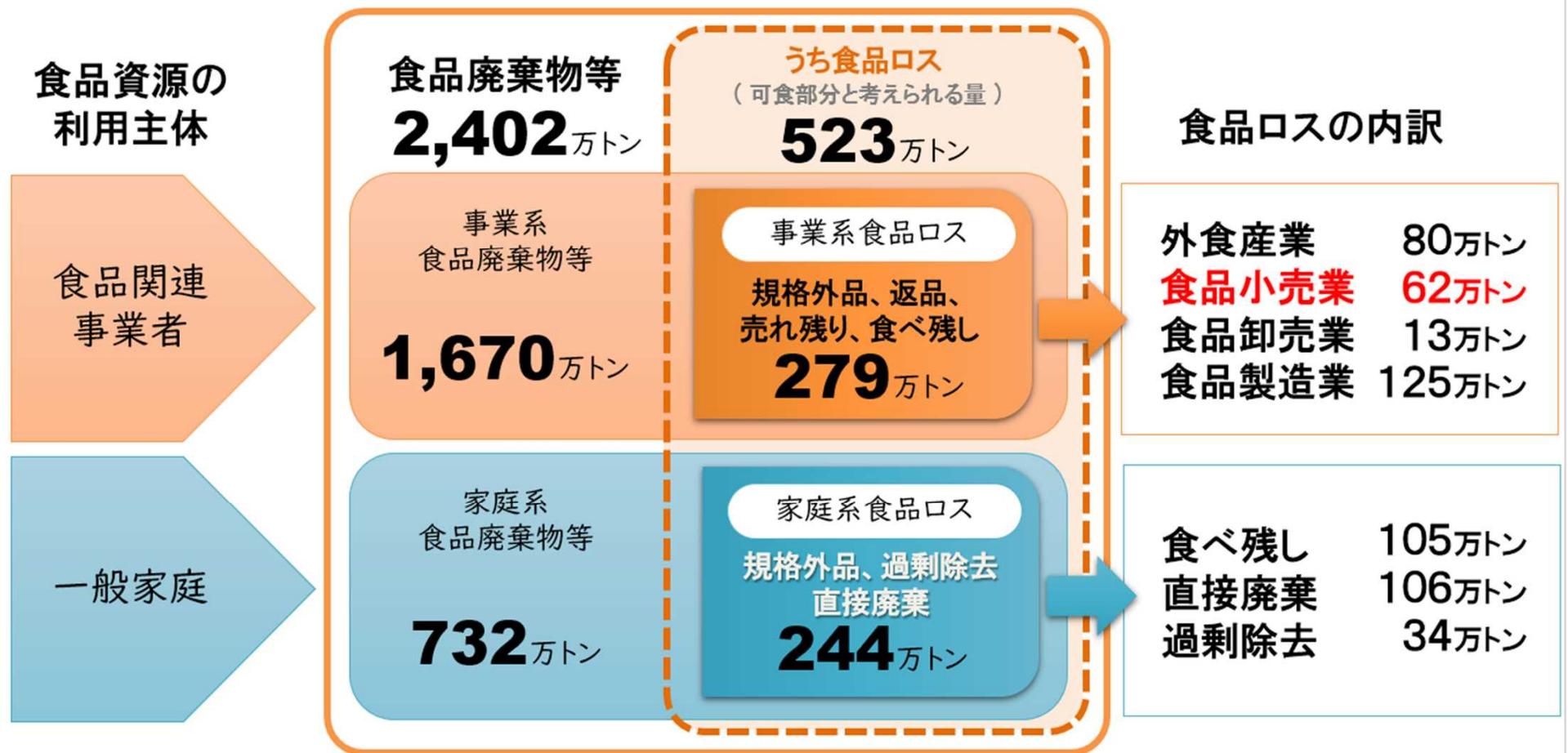
2011年から地球環境保全活動の一環として、茨城県笠間市の吾国・愛宕県立自然公園の「カスミ共感創造の森」で森林再生事業に取り組んでいます。2023年5月20日には10回目となる植樹祭を4年ぶりに開催。笠間市職員の皆さま、イオンチアーズクラブカスミつくばやボーイスカウトの皆さま、新入社員を含むカスミスタッフなど総勢292名が参加しました。

また、2023年11月には第46回全国育樹祭において林野庁庁百賞をいただきました。



日本の食品廃棄物と食品ロス

資料：農水省及び環境省HP「令和3年度推計」より引用



廃棄物とリサイクル率

2023年度の廃棄物総排出量は30,857tで、このうち19,108t (61.9%) をリサイクルしました。食品のリサイクル率は72.4%です。

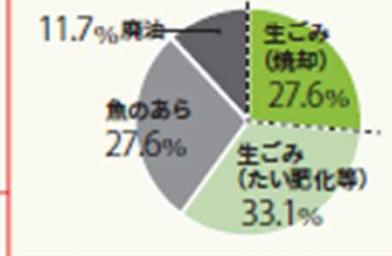
廃棄物リサイクルの割合

リサイクル物61.9% (19,108t) 廃棄物38.1% (11,749t)



食品リサイクルの割合

リサイクル物72.4% 廃棄物27.6%



**「廃棄物の削減」 目標 2030年度廃棄物50%削減(2020年度対比)
2050年循環型地域社会の実現**

【ごみの重量を明確にする】

店舗から発生する廃棄物及び有価物は、廃棄物処理法の遵守に則り、廃棄物処理業者様から、請求時に処理項目別に報告いただいています。

(可燃物・不燃物・プラスチック・粗大ごみ・食品リサイクルなど)

【食品ロスの算出】

- ①食品リサイクル未実施店舗の、可燃物を展開検査し食品の重量比から全体を推計
 - ②食品リサイクルの実施店舗の、可燃物と食品リサイクルの重量比から全体を推計
- ⇒カスミでは可燃物の中の約20%が焼却生ごみとして残っている

食品ロスの把握をする ・ 重量 可燃物からの食品残渣を調べる

【カスミのごみ分析実施の背景】

2030年までに事業から出されるゴミを50%にしたい。(2020年対比)

そのためには、まず現状排出を分類し、方向付けする必要がある。

⇒ 調査・分析は、減量化や、再資源化推進のための基礎データとなる。

【店舗のゴミ分析方法】

①分析方法

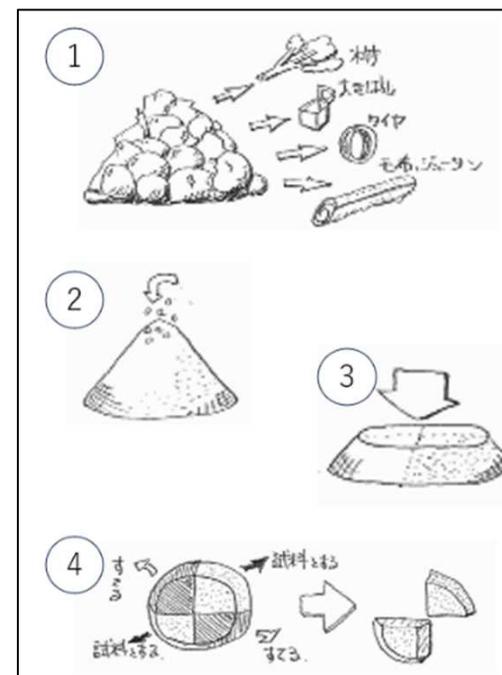
環整95号に定められたゴミ分析「四分法」を検討したが手間がかかり、実際には店舗の全量を開封し、仕分け及び分類し、各重量を計測した。

②分類方法 可燃物の細分化は
製品廃棄物・食品残渣と、そうでないもの

③計量方法 計量法 認証はかりを使う Kg単位

注意点 ・ 店舗の平均的な内容を抽出できる曜日かどうか
・ 廃棄物回収業者の収集日時で欠落、過剰はないか
・ シーズンなど特別な与件をつかんでいるか

四分法は手間がかかり、
廃棄物保管庫で実施するには
不向きであった



食品ロスの把握をする ・ 重量 可燃物からの食品残渣を調べる

可燃物からリサイクル可能性のある物の重量を調べる (季節特性があり、偏った事例)

可燃物 ごみ質調査

実施日 2023年8月9日(水)19:10~20:10
 店舗 78 カスミ那珂店
 実施者 カスミ伊神、他4名
 方法 ・可燃物全量開封分別計量 寺岡計量器使用 kg 小数点第二位

この日は、水分を含むものが多く、食品残渣ではスイカと葉物トリミングで59%を占めていた。

A 全体量	174.7 kg	100%
- (①+②+③)	103.1 kg	59%
差	71.58 kg	41% ← 汚染物があってリサイクルに適さないもの(使用済ペーパータオル、汚れた包装物など)

A 全体量

袋通しNo.	重量(kg)
合計	174.7
1	2.94
2	2.02
3	3.88
4	9.48
5	2.86
6	1.82
7	0.94
8	6.68
9	5.78
10	7.92
11	2.12
12	8.62
13	9.84
14	3.36
15	0.88
16	1.5
17	4.98
18	4.2
19	3.6
20	4.24
21	1.62

100%

① 食品残渣

袋通しNo.	重量(kg)	
合計	95	54%
1	5.3	レタス
2	5.5	レタス
3	9.48	レタス
4	6.68	スイカ、内汁が0.48
5	5.78	
6	7.92	
7	8.62	スイカ
8	9.84	スイカ
9	4.24	
10	6	酢飯
11	7.16	つま
12	3.72	レタス
13	2	もやし
14	3.74	
15	3.08	スイカ
16	3.94	キャベツ
17	2	

54%

② 紙量

袋通しNo.	重量(kg)	
合計	6.67	4%
1	2.12	
2	0.88	
3	0.89	
4	0.84	
5	1.64	
6	0.3	シール剥離紙

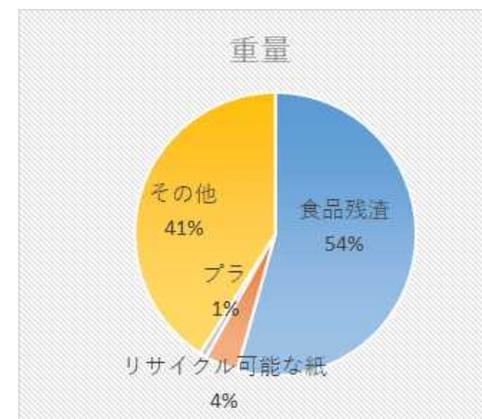
4%

④ プラ量

袋通しNo.	重量(kg)	
合計	1.41	1%
1	0.71	青果キャップ
2	0.1	青果キャップ
3	0.1	ppバンド
4	0.12	ビニール
5	0.38	トレー

1%

構成比
 スイカ合計 28.22 30%
 葉物合計 27.94 29%





神立資源リサイクルセンターエコプラント

日立セメント株式会社

← 「みんなの生ごみから生まれたリサイクル肥料」

土浦市や製造者などか利用しているが、たい肥の活用が課題。資源循環のループの有用性を広めたい。

百姓倶楽部HP「食品リサイクル・ループ」より

日立セメント株式会社提供

食品ロス対策 ②資源循環 鶏の飼料として活用し、産まれた玉子を使う

食品リサイクル・ループ認定

2021年10月、食品リサイクル法に基づく「再生利用事業計画」の認定を取得。店舗で分別した食品残さなどを保冷車で運搬し、再生利用事業者で飼料化。養鶏場でその配合飼料を給餌した鶏から採卵し、その卵をゆで卵に加工。最終的にカスミの店舗でゆで卵入り弁当などを製造販売しています。



「特製粗挽きデミグラスハンバーグ弁当」

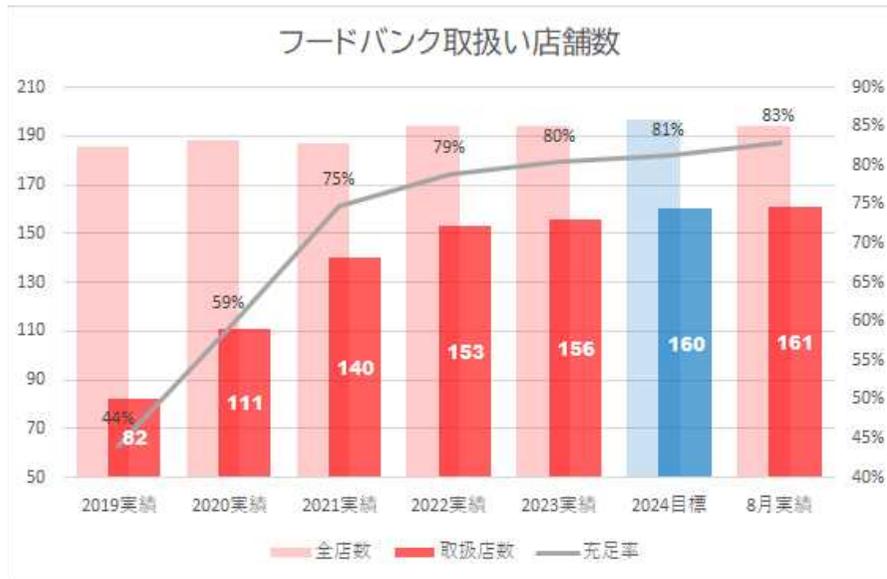


「7品目 豆腐ハンバーグと野菜の甘酢あん弁当」

青果のトリミングした野菜屑を活用し養鶏場の配合飼料に供給。
2023年度は「とろとろゆで卵」を年間585,160玉使用。 (2023/03月～2024/02月実績)

フードバンク活動

販売管理のために売り場から撤去した賞味期限・消費期限前の食品を、出店地域のフードバンクや社会福祉協議会を通じて生活困窮者や子ども食堂へ贈る活動を、2024年4月末現在156店舗で実施しています。



株式会社カスミフードバンク取り扱い店舗最新

カスミの食品寄付の仕組み



フードバンクの拡大は大切だが、一方で栄養バランスのとり方や、貧困の連鎖を断ち切る「自立」プログラムも取り込むべき課題である。今期、冷蔵品も検討。フードドライブは今期20店舗にて展開予定。

食品ロス対策 ④発生抑制・有効活用

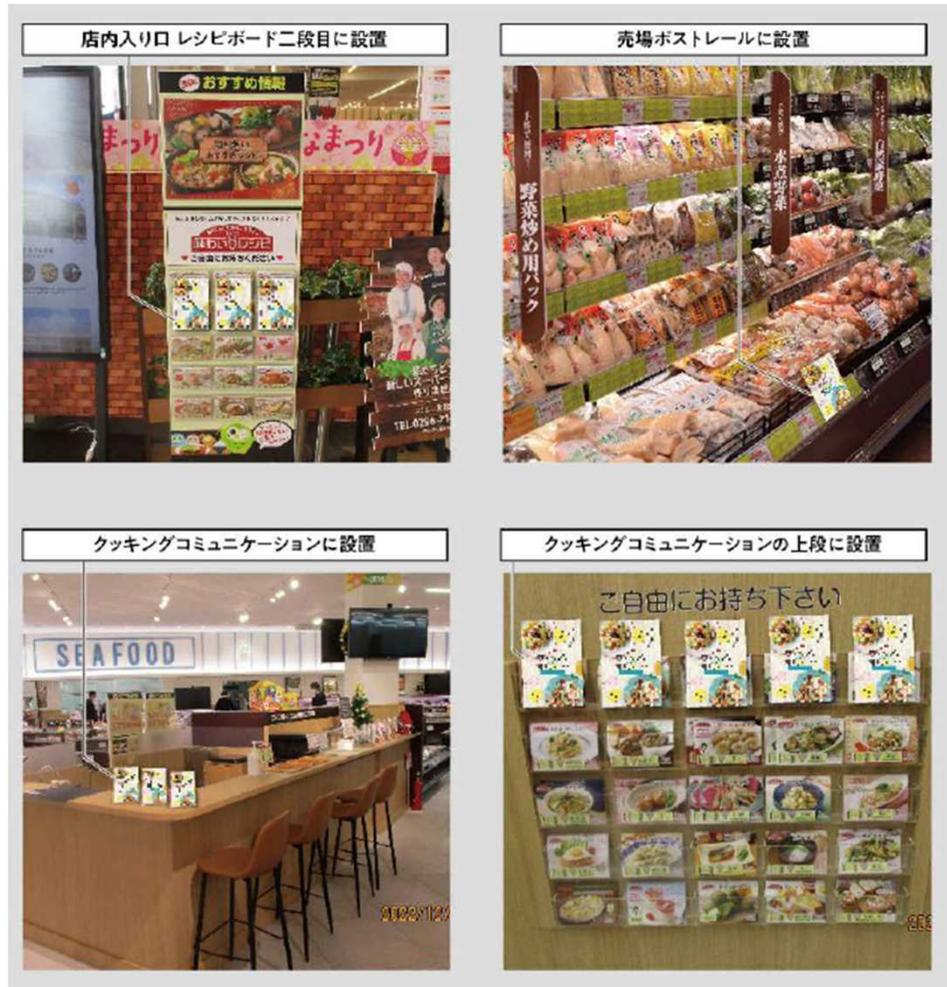
「地球にやさしく、おいしく」レシピ

■レシピ小冊子

8ページ仕立て
B6サイズ



■8ページ冊子



食育学習の目指す姿＝地域の持続可能な食と健康を支える存在

地域と共に

「伝える」の育成

「食育」を広める

地域社会の「健康生活」を目指して

食育インストラクター
キックオフ (4月17日)



園児・小学校の子どもたちの「食育」プログラムに、「栄養バランス」以外にも、「食品ロス」のプログラムも加えた。

- ・紙芝居で、買いすぎない、作りすぎない、食べ残さないことから「もったいない」を無くすことを伝える
- ・買いもののしかた「てまえどり」を伝える
- ・つくば市と連携しコンポストで食品残渣の活用、などを伝える。

食品ロス対策 ⑥発生の抑制～資源循環 地域の子どもと食の循環を学ぶ

「イオンチアーズクラブ カスミつくば」を2023年度カスミにて発足。36名の子どもがクラブメンバーとして、年間12回のプログラムに参加⇒壁新聞で体内化

目指せ！ 壁新聞 全国大会

2023年テーマ「食の循環」

1～2月 壁新聞を製作
3月16日 壁新聞審査会開催
全国大会への出場決定

評価: 経験を自分の言葉で「自産自消」という見出しをつけて循環を表現したところが良い。

(朝日新聞社 水戸総局長評)

全国大会

開催日:2024年8月1日～3日
実施場所:北海道・関東同時
発表者: 代表5名
・小学5年 4名
・中学1年 1名



地元の筑波大学や日立セメントなどが連携し、カスミならではのプログラムを作った。植え付け、育成、収穫、加工、パッケージづくり、POPづくり、売り込み、試食販売、食品リサイクル、食育、など掘り下げた。

食品ロス対策 ⑦発生の抑制・資源循環 毎日の「食育」教育のある保育園の運営

保育事業

「カスミいいねの森保育園の重点取り組み」

厚生労働省【保育指針】

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目

- 健康な心と身体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量・図形・文字等への関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

育みたい能力・資質 3本の柱

知識および
技能の基礎

思考力・判断力・
表現力等の基礎

学びに向かう
人間性等

5領域

健康

人間関係

環境

言語

表現

3つの視点

身体的発達

社会的発達

精神的発達

【開園5年目を迎え「カスミいいねの森保育園の教育体制」を確定する】

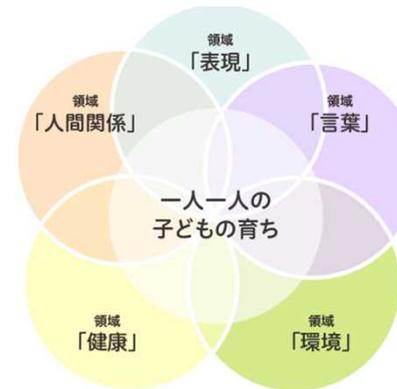
2019年に開園し、保育園の教育体制を模索してきた。新型コロナにより、行事の制限などがあり、方向性を探っていた。5年目を迎え、5領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」を具体的に、実行するための「カスミいいねの森保育園」の保育プログラムを各年齢児ごとに策定する

食育

- ・玄米和食給食
- ・クッキング（月1回）
- ・食育講座（毎日）
- ・菜園活動

知育

- ・アート教室（年3回）
- ・英会話レッスン（月3回）



徳育

- ・集団遊び
- ・異年齢保育
- ・サークルタイム

体育

- ・リズム運動
- ・鉄棒、トランポリン
- ・外遊び ・縄跳び



- ・毎日、野菜の由来と栄養についてレクチャー。好き嫌いをなくす。
- ・食品残渣をたい肥にし、熟成したら園庭の植物に利用している。

店頭にてお客様からの回収もスタート

取り扱い店舗数 17店舗

牛久市(5) 土浦市(6) 阿見町(2) 佐野市(1)
宇都宮市(1) 稲敷市(2)



今後の計画 約20店舗

美野里町、水戸市、日立、
ひたちなか市方面

現在カスミの
190店舗にて
事業から出た廃油を
回収中



浅沼店



牛久刈谷店

●食品ロス削減推進サポーターとして活動に向けて

《消費者庁食品ロス削減特設サイト
食品ロス削減推進サポーター向けページ》



<https://www.no-foodloss.caa.go.jp/supporter/>

《食品ロス削減推進ガイドブック》



《食品ロス削減推進サポーター認定証》



消費者庁配信「食品ロス削減推進サポーター制度について」より抜粋 6

まとめ

I. 食ロスをなぜ減らすのか、自身の中で大義を持つ

II. 食品ロスを減らすための施策

- ① 自社の廃棄物の内容を把握する
- ② 世の中の動きを知りあるべき姿を考え、大目標を設定する
- ③ ごみの分類別に発生原因を考え、プレイヤーを整理する
- ④ 自社でできること、他者と連携できること、情報を仕入れ可能性を整理
- ⑤ 自社のルールを作り、日々の目標を持つ
- ⑥ 進捗確認をする、振り返る、意見をもらう、ブラッシュアップする

同じ志を持つ仲間を持ち、コミュニケーションをとり、ベストは何か考え動く。

減らす・無くす、活用する、循環させる など、3Rもコストなどの
状況をみながら、地球の未来に良いかたちに変更していく

